資料4

平成24年度消防団関係当初予算について

平成24年1月30日

「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動の
あり方等に関する検討会」ワーキングチーム会議（第2回）

消防庁 Fire and Disaster Management Agency

平成24年度消防団関係予算

消防庁

- ○ 消防団員確保アドバイザーの派遣
- ○ 全国女性消防団員活性化大会の開催
- ○ HPなどによる各種広報、消防団員意見発表会・地域活動表彰式
- ○ 大規模災害時の消防団活動のあり方の検討
- ○ 災害対応指導者育成支援事業　＜新規＞
- ○ 消防団・自主防災組織の理解促進シンポジウムの開催　＜新規＞
- ○ 「消防団協力事業所表示制度」の全国展開
- ○ 全国消防操法大会の実施
- ○ 少年消防クラブ交流会の実施　＜新規＞

消防団の新戦力の確保・活動の円滑化

消防団の理解促進・地位・技術の向上

東日本大震災を踏まえた消防団活動のあり方の検討

消防団の充実強化（団員の安全確保、活動環境の整備、入団促進）

平成24年度消防団関係予算新規事業

（1）災害対応指導者育成支援事業

消防団員の安全確保及び消防団の災害対応能力の更なる向上のためには、安全管理や幅広い防災の知識、図上訓練等の企画・運営能力を持った団員の育成が必要であることから、全国（47箇所）で育成支援プログラム（講習会）を実施する。

また、3月に取りまとめる検討会の中間報告の説明を行うことにより、消防団員の安全対策への取り組みを促す。

（2）消防団・自主防災組織の理解促進シンポジウムの開催

災害による被害を軽減するには、とりわけ津波による人的被害を軽減するには、海岸保全施設の整備、津波避難ビルや避難路の整備といったハード対策はもとより、住民の防災意識の向上、防災訓練、ハザードマップの理解促進等のソフト対策が重要であり、ソフト対策をより効果的に推進するためには、消防団、自主防災組織といった地域の防災力の強化が極めて重要なポイントとなる。

地域の防災力を充実強化するには、防災教育などを通じて住民と危機意識を共有することが必要であり、消防団の意義、自主防災組織の活動等と合わせ、広く国民に周知するため、幅広い世代が参加する形でシンポジウムを開催する。　＜全国7箇所程度＞

（3）少年消防クラブ交流会の実施

将来の地域防災の担い手（消防団）育成のため、被災地の消防団等から東日本大震災の教訓を学び、全国の少年消防クラブ員と交流を深める交流会を、東北地方において実施する。

消防団・自主防災組織理解促進シンポジウム

目的　地域住民に自助・共助（消防団、自主防災組織）の必要性を訴え、地域防災力の向上を図る。

＜事業イメージ＞

広報

- チラシ
- ポスター
- インターネット

など

自助・共助シンポ

【会場】 全国7カ所程度（想定）

【内容】
- 消防団・自主防活動報告（先進事例）
- 基調講演
- パネルディスカッション
- 東海、東南海、南海地震等の切迫性
- 防災対策の考え方
- 開催地域で想定されるハザードについて
- 自分の身を守るには、地域を守るには
- 災害時サバイバル術
- AED・消火器使用体験
- 防災グッズの展示
- 消防団訓練体験
- 放水体験（実演）
- 消防車乗車撮影会
- 親子消防団制服撮影　などを想定

事業報告

- 速報記事
- 再録特集記事

※全国紙を想定

など

災害対応指導者育成支援事業

目的

消防団員の安全確保及び消防団の災害対応能力の更なる向上を図るため、安全管理や幅広い防災知識、図上訓練等の企画・運営能力を持った団員の育成を図る。

【カリキュラム案】

＜午前＞

安全管理

〇安全管理、危険予知講義（2時間）

→検討会の中間報告の説明、安全確保対策の必要性について説明

→安全管理の意義、東日本大震災の教訓、過去の公務災害の事例等について講義

＜午後＞

災害対応

〇災害対応基本講座（1時間）

→地震・津波災害、風水害、土砂災害等の特性、その対処法、法体系等について講義

〇図上訓練の解説（0.5時間）

〇図上訓練の体験（1.5時間）

〇図上訓練を踏まえてのグループ討議（1時間）

少年消防クラブ交流会

目的

東北地方において、被災地消防団等から震災の教訓を学び、全国の少年消防クラブ員と交流を深める交流会を開催することにより、将来の地域防災の担い手（消防団等）育成を図る。

【事業イメージ】

＜参加者＞

① 少年消防クラブ（7クラブ） 指導者(1名)・クラブ員(4名) 35名程度
② 被災地の消防、学校関係者 5名程度
③ 被災地の小中学校の児童・生徒 10～15名程度
④ 消防庁 数名

＜内容・日程案＞

（1日目） ① 現地集合（13:00頃）
② バスにより被災現場見学（2～3時間）
③ 宿泊施設着
④ 夕食
⑤ お話会（地元の消防団・住民の方の語りを聞く）

（2日目） ① 現地の小学校（中学校）と交流（午前）
② 昼食
③ キャンプ場に移動
④ サバイバルキャンプによるクラブ員の交流（夕食つくり等含む）

（3日目） ① 現地の消防団の方と交流
② 解散